

## トピック — 量販店における野菜の品目別販売価格の動向（最多販売単位別）

量販店における野菜の販売単位（ロット）を見ると、ばら売り、袋売り、カット売りなど、品目毎に多様であり、市況変動に応じて変化することがある。当機構が実施している最多販売単位別的小売価格動向調査から、その一端を紹介する。

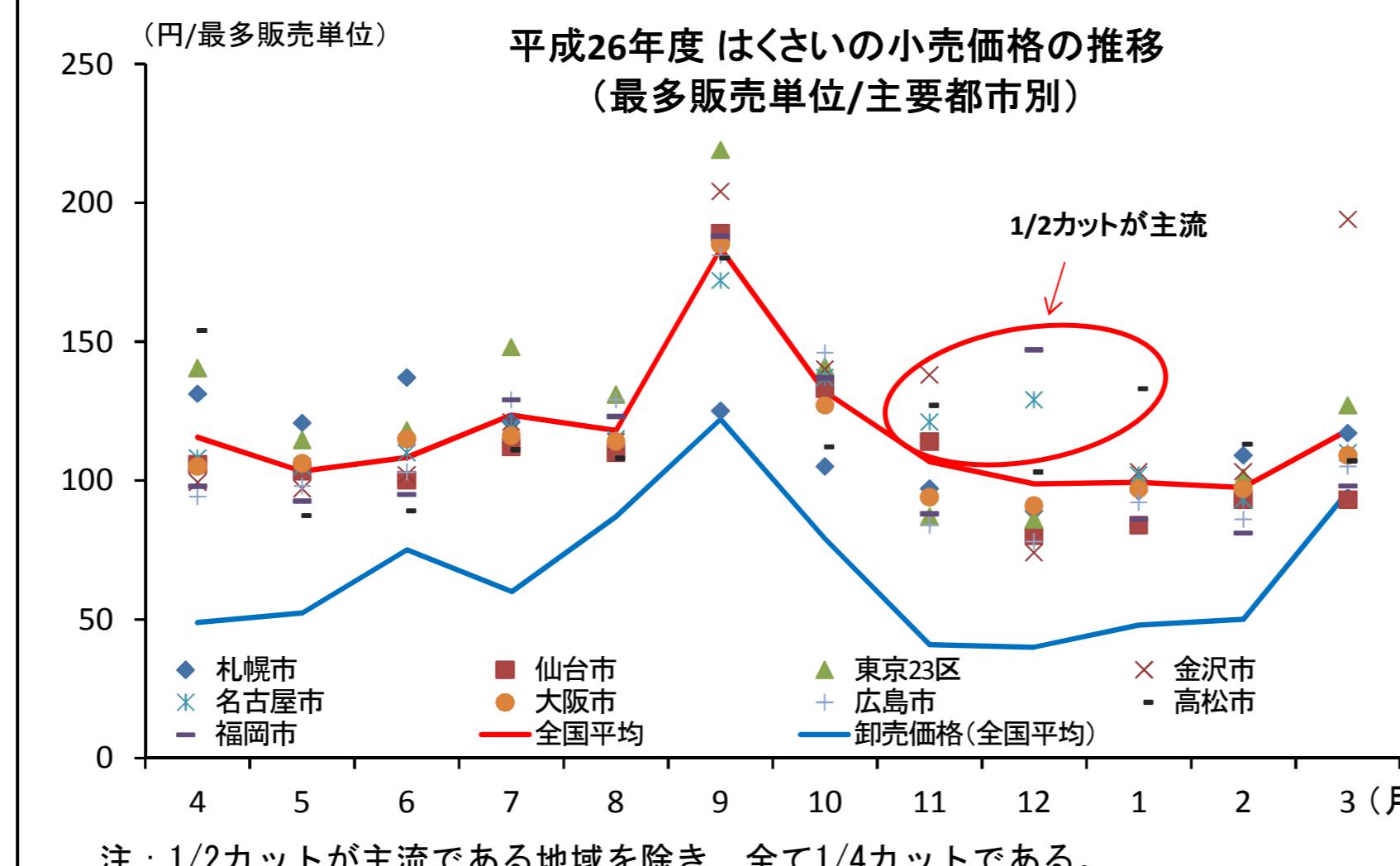
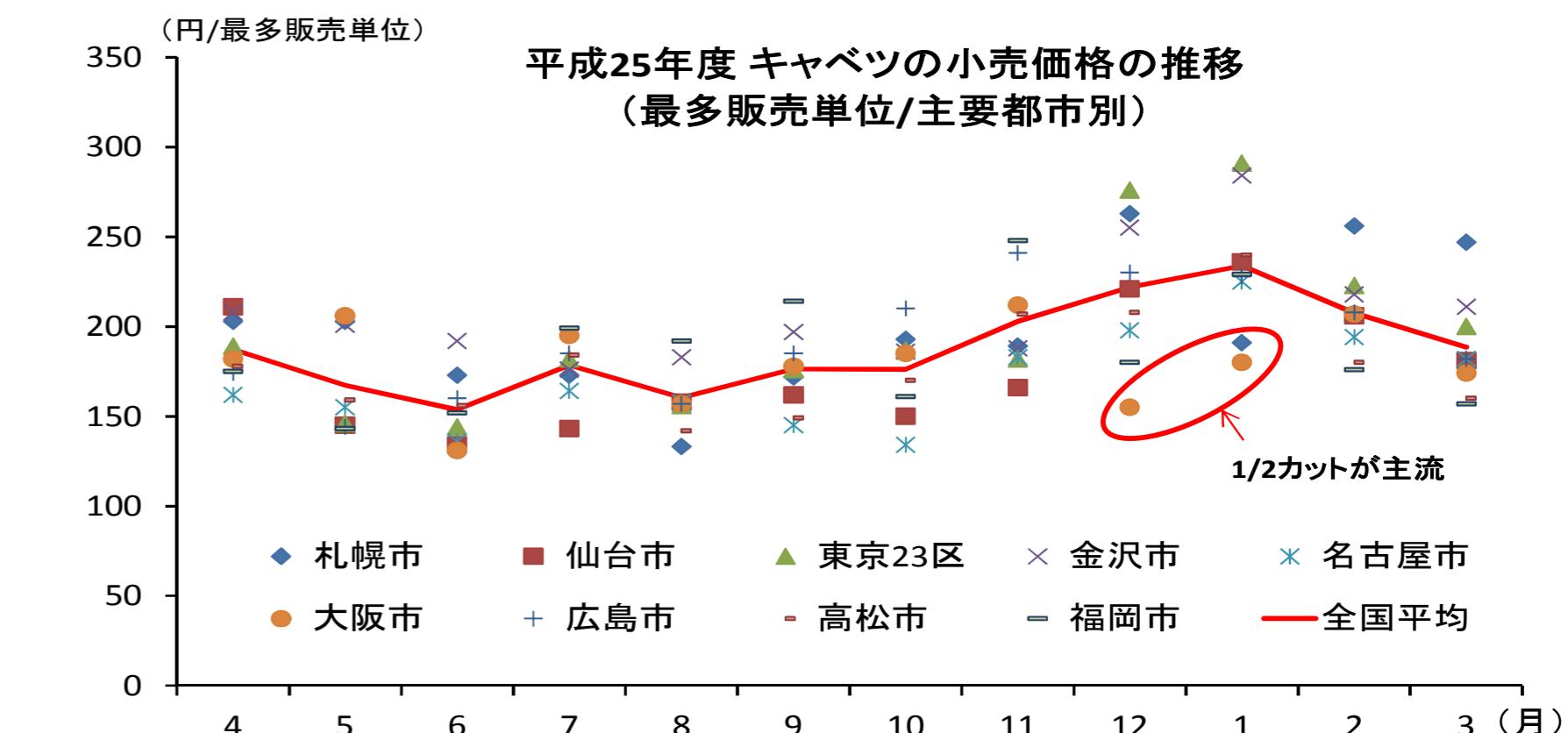
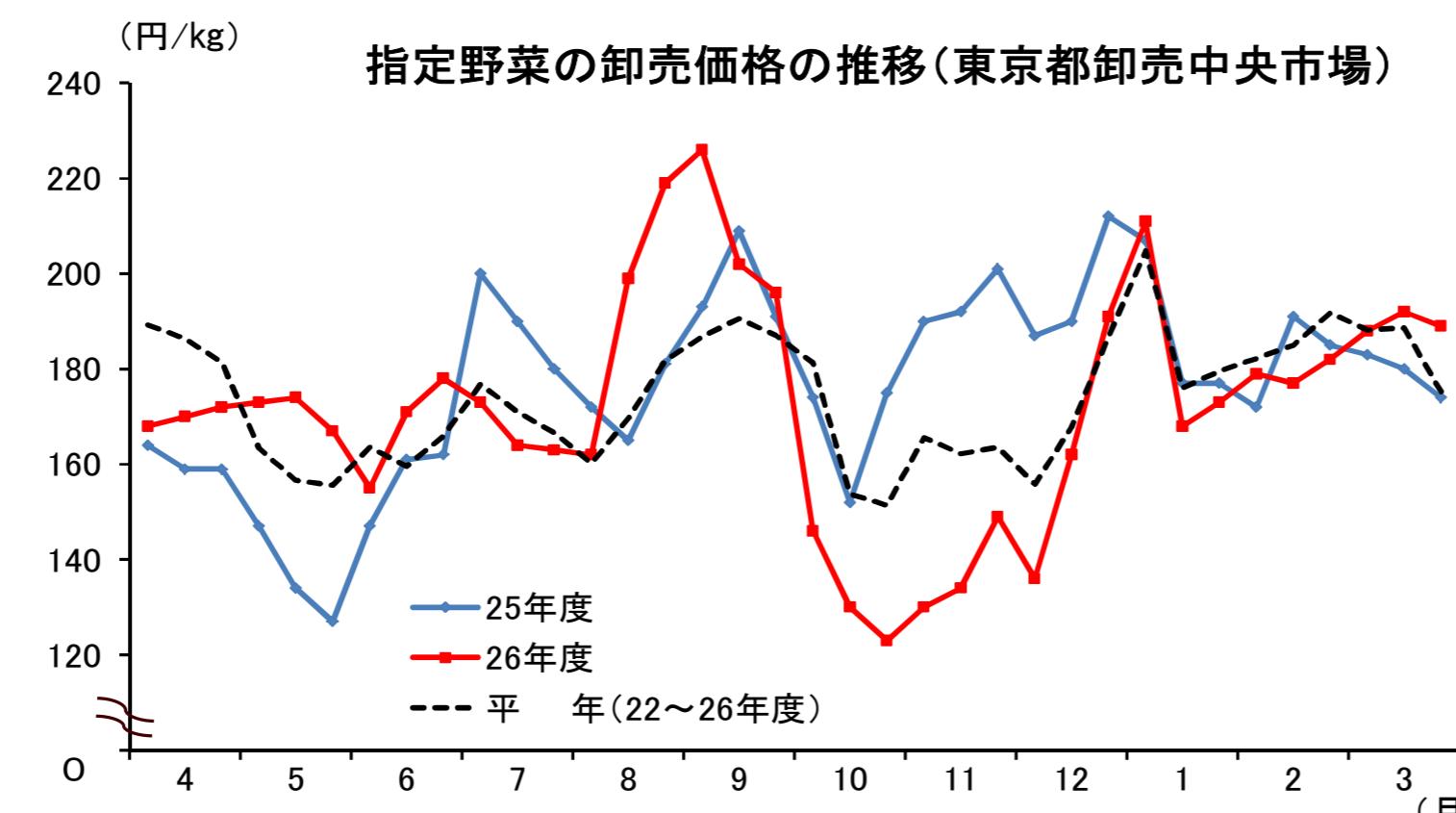
平成25～26年度の指定野菜（14品目）の卸売価格の動向を見ると、平成25年は夏季と秋口から年末にかけての高値、平成26年は夏季の高騰と秋口から初冬にかけての安値と、大きな変動がみられた。

この市況の下で、品目別的小売価格（最多販売単位別）を見ると、例えば、キャベツは1個売りが主流であるが、卸売価格が高騰した25年12月から26年1月は、店頭で1/2カット売りが主流となった地域もみられた。

はくさいは、全国的に1/4カット売りが主流であるが、平成26年11月から平成27年2月にかけては、夏季の気象災害で生育遅延した産地と後続産地の出荷が重なって卸売価格が著しく下落したことや、冬場の鍋物需要期ということもあり、一部の地域では1/2カット売りが主流となった。

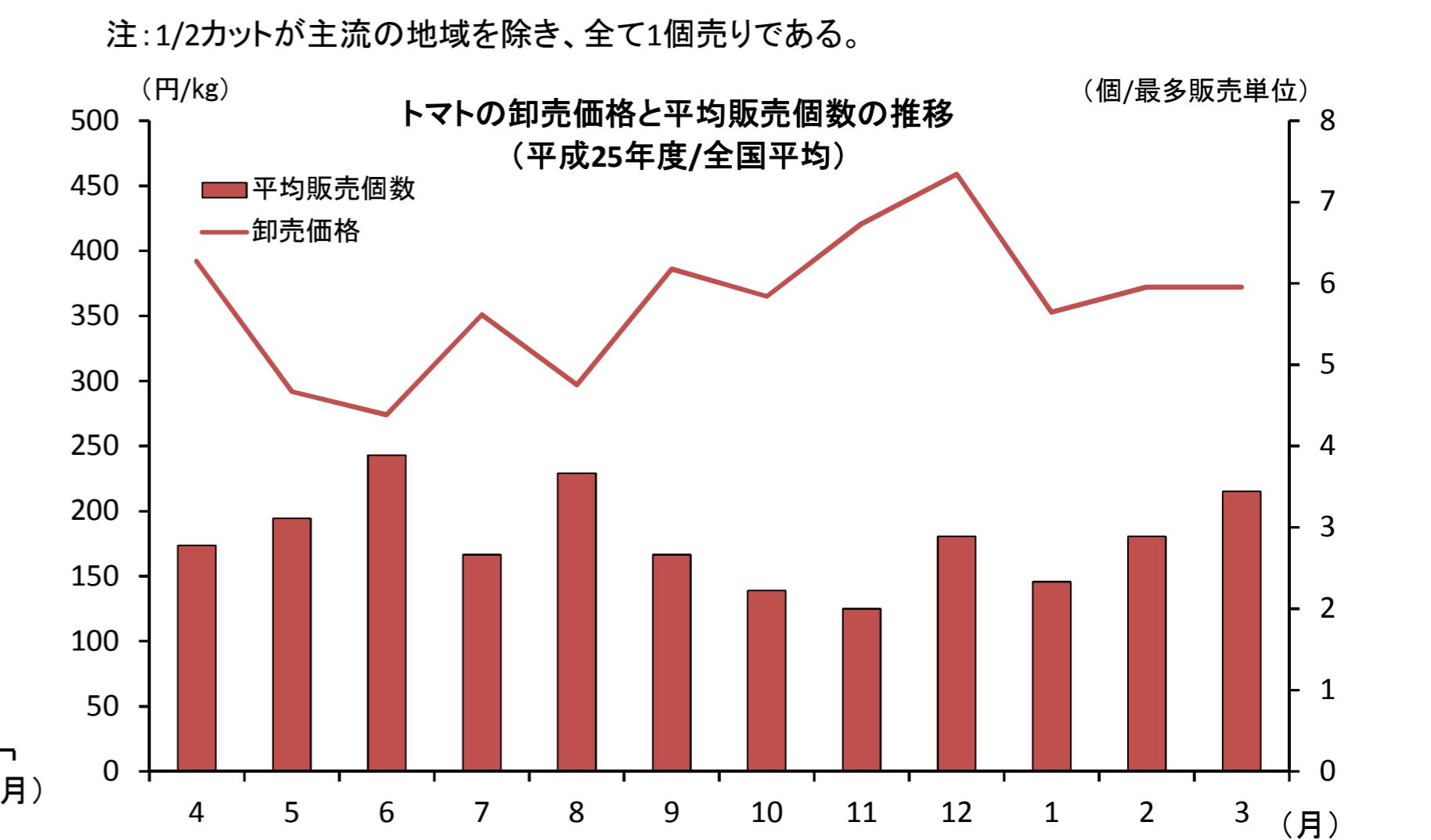
トマトは、3～4個の袋売りが全国的に主流であるが、平成25年度の月別の卸売価格と平均販売個数の動向を見ると、施設栽培品が増えて卸売価格が高くなる秋口や春先には、販売単位個数が減少する傾向がみられた。

このように、量販店では、気象災害等に伴う著しい卸売価格の変動や、季節毎の卸売価格水準の高低が、消費者が購入する1アイテム当たりの小売価格水準に与える影響を軽減するために、販売単位や量目を適宜変更することが行われている。今後は、市況変動への対応に加え、高齢化や核家族化が引き続き進行することもあり、重量野菜や単価の高い野菜等を中心に販売単位の変更や小口化の動きは徐々に進むとみられる。



注：1/2カットが主流である地域を除き、全て1/4カットである。

資料：農畜産業振興機構「野菜小売価格動向調査」



注：同調査は、全国主要9都市の量販店等(1都市10店舗)で、指定野菜の最多販売単位(販売面積が一番広くとられている販売単位)の小売価格調査等である。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。

※無断転載禁ず レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。